

# がく じ 学 而

摂南大学図書館報

No.102 2021.3



## 國寶伴大納言繪詞，複製（本館貴重図書室所蔵）

この絵巻物は『宇治拾遺物語』にも載っている、伴大納言の応天門放火事件の説話を題材としている。説話の概略は、大納言伴善男が応天門に放火して、罪を左大臣の源信（みなもとのまこと）にきせて陥しいれ、自分が大臣になろうとたくらんだのであったが、たまたま現場を通りかかって放火の犯人を見知っていた右兵衛の舎人の子と、その隣家に住む伴大納言家の出納の子との喧嘩がもとで、親どうしの口争いとなり、大納言の放火が暴露されるに至り、大納言が流罪となったという話である。応天門は宮城の朝堂院の正門で重要な門の一つである。

（『國寶伴大納言繪詞 複製』付録：解説及詞書釈文より）

## CONTENTS

大学における図書館の役割 …………… 2	教員が選ぶ推薦図書 …………… 9
図書館長 小山 昇	枚方分館ニュース …………… 10
私と本 …………… 4	図書館利用統計 …………… 11
理工学部 教授 伊藤 謙	2020 年度 図書館利用者アンケート結果 …………… 12
Library と Bookstore …………… 6	サービスの紹介 …………… 14
農学部 教授 小川 俊夫	2020 年度 摂大文化大賞・編集後記 …………… 16
図書館学生サポーター活動・ビブリオバトル 2020・	
図書館学生サポーターが薦めるこの 1 冊 …………… 8	

図書館の規模は蔵書数で語られることが多く、本学図書館では、本館と枚方分館(以下、分館)を合わせて約54万冊を所蔵しており、単行本以外の学術雑誌種数は約3,900を数えている(2021年3月現在)。さらに、電子書籍・電子ジャーナル、映像ソフトも数多く利用することができる。

蔵書数で図書館の規模を見るということは、書籍としての本が図書館を代表するものであってそのことはこれからも変わることはないであろう。社会教育法(昭和24年法律第207号)は、「図書館及び博物館は、社会教育のための機関とする」と規定し、必要な事項は別に法律をもって定める(9条)としていて、図書館法(昭和25年法律第118号)は、「社会教育法の精神に基づき、図書館の設置及び運営に関して必要な事項を定め、その健全な発達を図り、もつて国民の教育と文化の発展に寄与することを目的」としている(1条)。

図書館法は、その図書館の対象を地方公共団体が設置する「公立図書館」と一般社団・一般財団法人の設置する「私立図書館」を区別しているが、「学校に附属する図書館又は図書室を除く」としている(2条)。小学校、中学校そして高等学校には、学校図書館法(昭和28年法律第185号)が「学校図書館」の設置義務を課している(3条)のに対して、大学については、学校教育法施行規則(昭和22年文部省令第11号)によって大学の設備などは大学設置基準(昭和31年文部省令第28号)の定めによるとされている(同規則142条1項)。大学設置基準では、設置すべき施設として図書館が明示され(同基準36条1項)、二以上の校地において教育研究を行う場合には、それぞれの校地ごとに教育研究に支障のないよう必要な施設及び設備を備えるもの、としている(同基準40条の2)が、さらに「図書等の資料及び図書館」について具体的な規定を置いている。

大学設置基準38条は、まず、「大学は、学部の種類、規模等に応じ、図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料を、図書館を中心に系統的に備えるものとする。」(同条1項)とし、図書館は、そのために、

資料の収集、整理及び提供を行うほか、情報の処理及び提供のシステムを整備して学術情報の提供に努めるとともに、資料の提供に関し、他の大学の図書館等との協力を努めると規定している(同条2項)。そのような図書館の機能を十分に発揮させるために、必要な専門的職員その他の専任職員を置くこと(同条3項)、大学の教育研究を促進できるような適当な規模の閲覧室、レファレンス・ルーム、整理室、書庫等を備え、閲覧室には十分な数の座席を備えること(同条4、5項)も合わせて明示している。

図書館の規模など具体的なことは学部の種類や規模等に応じてとなるが、教育研究に必要な資料は、図書館を中心に系統的に備えなければならない(設置基準38条1項)、とされていることは重要である。

本学では、設置場所の関係から本館と分館では異なった配架方法で対応している。分館は、保存書庫を除いて1フロアであるために、3学部の専門分野の普通図書を中心として専門・一般雑誌、新書・文庫などをゾーンで分けることによって利用者視点での配架にしている。他方、本館では、2箇所にある保存書庫を除いて、入退館ゲートのある1階は、マルチメディアフロアとして、映像資料を始め就職・資格関係図書、新聞、新書・文庫などを配置するほか情報検索のスペースを設けている。また、様々な教育方法に利用できるラーニング・コモンズが設けられ、利用者の多様なニーズを意識したフロアと位置づけられる。2階フロアは全面で普通図書を配架し、3階は、学術雑誌を中心に辞書・事典、白書や地図などの各分野の参考図書を配架するとともに、グループ及び個人の閲覧室や図書等についてのレファレンスを受けられるカウンターを設けている。

このような図書館の概要に対してその利用状況を2019年度全体で見ると、本館・分館ともに、学生と教職員の合計について、資料の貸出者数は入館者数の8%しかなく、貸出冊数も2冊程度である。文献所在調査は本館で月平均約100件あり、利用指導については、年度前半に多いが平均すると両館ともに入館者の1%程度

が利用している。2019年度末は、新型コロナ感染拡大の状況から入館者数が2020年2月は前年比90%（分館は75%）、3月は76%（分館は69%）に減少しているが、2018年度と2019年度の入館者数に対する貸出者数の割合や貸出冊数の平均はほぼ同じである。また、本館に設置されているグループ閲覧室とラーニング・コモンズの利用件数は、3つのグループ閲覧室の合計で314件（前年度429件）、後者は400件（前年度410件）となっている。これらの状況は、入館者の図書館利用が資料の貸出以上に多様性があることを示していると考えられ、さらに、各学部生の月平均貸出者実数を在籍者数と対比すると、最高25%最低5%平均が13%で、学部間の開きが大きいものの文系と理系学部での違いはなく、学部の専門分野と貸出者数に明白な特徴があるとはいえない。

2020年度は、新型コロナ感染の拡大防止対策として、4月から5月末まで学生の図書館利用を停止した後、6月からは一部の資料や座席の利用を制限して学生の利用を再開し後期は対面授業が多くなったが、感染対策のために開館時間など一部の利用制限を継続している。そのようなことから、学生・教職員合計の入館者数は、11月分までであるが、本館では7%、分館では11%程度に留まっている一方で、貸出者数は、昨年と比べると本館が入館者数の26%（昨年度8%）分館が34%（同8%）と大幅に増加している。これは、利用制限があるため図書の出借を目的とした来館が多いのではと考えられる。

そこで、図書館利用の活性化そして役割を考えると、コロナ禍の下での新しい図書館のあり方を検討していくべきものと思われる。図書館で利用できる資料には紙媒体やCD・DVDなどのデジタル記録媒体のほかにネットを使った電子資料もあるが、今年度はその資料の学外利用を拡大することから始めている。

国際ウイルス分類委員会が新型コロナウイルスについてそのゲノム配列の類似から「SARS-CoV-2」と命名したことを受けて、2020年2月11日に世界保健機関がこの新型ウイルスによる感染症を「COVID-19」としたが、わが国では、「新型コロナウイルス感染症を指定感染症として定める等の政令（令和2年1月28日政令第11号）」が2月1日から施行されると、様々な社会活動が制限されることになった。大学でも学生の入構制限が実施されると

図書館内の利用が困難になり、自宅での学習を支援する方策の検討が必然となって、いわゆる非来館型のサービスをどのようにすべきかが問われることになった。

新聞記事検索や法律情報などの一部の外部データベースや様々な電子書籍では学内からの発信が求められるが、学外からの利用のためにIDとパスワードを用意することにも限界があり、いわゆる仮想ネットワーク(VPN)接続を利用することによって、同時接続の制限はあるものの多くの電子資料にアクセスすることが可能となっている。このような学外からの電子資料の利用は、コロナ禍の状況下による特別なものではなく、図書館利用の新しい展開に繋げるきっかけを与えるものと考えられる。学外からの図書館利用と館内での利用が相互に繋がる具体的な方策を検討すべきことを教えられていることは間違いないのである。文献検索などの資料レファレンスや初年次教育としての図書館利用指導をオンラインで適宜できる環境を整えることや、図書の宅送サービスなどの可能性も検討することが必要である。

図書館が所蔵する様々な資料に直接触れることによる知的刺激を原点としつつも、ネット環境を利用した様々なサービスを探ることで館内利用との連携に繋げ、それによって新しい刺激が生まれることを期待したい。



### 小・中学校時代—佐藤文庫—

私の本に関する思い出は、仏壇にお経と一緒に放り込まれていた「学問のすすめ」(福沢諭吉)などの明治初期の教養書と当時先祖が筆で書いた英単語の練習帳の冊子に遡ります。百姓にとって学問は必要のない時代でしたが、明治維新からしばらくは各地で新しい知識を学ぼうと農民でさえ夜に集まって学んでいたようです。しかし、社会が安定すると、農民は元の農民の生活に戻ったのでしょ。

私の小学生時代は、終戦後のアメリカ式教育の本格的な導入時期かと思います。自主性を尊重して、教員の強制をなくそうという動き(総合学習のようなもの)の下、宿題はほとんど課されない教育を受けてきました。このような農村でありながら自由な教育を受けてきた小学校数校の出身者が一つの中学校に進みました。

中学校は当時最先端のデザインの鉄筋コンクリートの立派な校舎に新築された直後でしたが、設備は貧弱で、特に図書室は空っぽでした。備品の多くは保護者や有志からの寄付で充当することになっていたようでした。吹奏楽部の楽器は中学対抗運動会の応援で必要だという理由で充実していましたが、大多数の保護者にとって本は何の足しにもならないもので優先順位が低かったようでした。そのような状態を憂いたのが、中学校の狭い購買で文房具を販売していた佐藤さんという方でした。佐藤さんは、1000冊以上であったと記憶していますが図書室一杯の本を寄贈されて、2年生のころには図書室らしくなり、当時、本に飢えていた生徒の溜まり場となりました。

私もそのような生徒の一人でした。中学生の放課後は部活動、農業の手伝いまたは川遊びだった時に、図書室にたむろする選択肢が加わりました。大量の本に自由に接することのできる環境を整えてくださった佐藤さんのことは今でも思い出します。

### 高校時代 —蘭学と資本論—

高校は市内唯一の普通科高校でした。旧帝大にどうしても進学したい生徒は福井市内の進学校に下宿して進学するので、私の高校はそのような心掛の生徒のいない青春ドラマそのものの楽しい高校でした。

そんな母校の図書室は校舎の端に武道場と並んである目立たないけど立派な図書室でした。藩校時代の蘭学の資料が図書室のかかなりのスペースを占め、そこは立ち入り禁止で、ときには大学の研究者も調査に来るような貴重な資料がありました。書棚の最上段には、耐震的には問題ですが資本論などの分厚い全集が何セットも置かれていました。社会科の先生にそそのかされて資本論に挑戦してみましたが、全く歯が立たず断念したことを覚えています。しかし、後日母校の先輩である叔父から聞いたところ、昭和30年頃までの社会が不安定だった時代には、高校生でも資本論、実存哲学、相対性理論から皇国史観などまでを熱心に学ぶ風潮があったようです。

このような私にとっては楽しくない図書室でしたので、中学時代とは打って変わって全く図書室に寄り付かない学校生活を送りました。

### 大学時代 —教養との出会い—

教養という言葉を最初に意識したのは、大学のドイツ語の授業でした。テキストはニーチェの「この人を見よ」でドイツ語を全く知らない学生にとっては無茶なドイツ語授業でした。しかも、担当教官が哲学のA先生で、ドイツ軍人のような風貌の厳しい方でした。自力で翻訳したのでは歯が立たないので、岩波文庫を片手に予習をしました。が、翻訳者の日本語も理解できないレベルなので授業で指名されたが最後、ナチスの拷問に耐えなければなりませんでした。

「この人を見よ」はニーチェの発狂寸前の頃の作品で、それまでの業績の総括、しかも自画自賛や他者への罵倒が入り混じったもので、工学部土木工学科の学生に理解できないのは当然であると悟ったのは1年生前期の期末試験でした。

それと対照的なのが哲学の武市先生でした。授業の内容は日本人や美意識に関する先生独自のお考えで、ノートを一文字一文字ゆっくり読みながら教室内を巡回し、学生はひたすら筆写するといった古典的授業スタイルでした。現在であればアクティブラーニングの真逆の良くない授業と言われるでしょう。しかし、穏やかな先生の授業は、なぜか聴かざるを得ない雰囲気が漂っていました。

夏季休暇の課題は、自由に哲学書を選び読んでレポートを提出する内容でした。私の選んだのは大嫌いなニーチェではなくシェリングの「人間的自由の本質」でした。書きあげたレポートを教官室に持参すると、その場で読んで評価していただいたのですが、先生の講評は哲学用語が多く良いのか良くないのかさえ分からなかったことを今でも覚えています。

この対照的な二人の哲学の先生方から授業で得られたことは、ドイツ軍人の恐怖に立ち向かうために「ツァラトストラ」から「権力への意志」までニーチェ作品の殆どに目を通したことで哲学書が怖くなくなったこと、自分の言葉で自分の思想を語る哲学者の授業を受けたことだと思っています。その成果は、最近の学生なら人間的に「成長した」と胸を張るかもしれませんが、私の場合は人間的な成長はなかったと思います。ただ、「人間の行動や思考は正しい・正しくないとは簡単に言えない」、「とんでもない考えも許される世界がある」といったことは感じました。

教養部で極楽のような2年間が過ぎ、それから現在まで専門一筋のブラックな生活を40年間過ごしてきました。

### 摂南大学 一理系と文献一

大学院を修了後、12年間の高速道路建設を経験し、泥だらけの長靴で喫茶店に入っても平気なメンタルを身に付けたころ、阪神大震災のショックを受け、摂南大学にお世話になることを決めました。

理系の教員である私にとって、図書館は研究にあまり必要はないと思われがちですが、技術の起源や変遷を調べるには、最近の文献やネットだけでは探し出すことができません。古い文献の端々には、ネットでは調べようのない人間ドラマが垣間見られることもあります。

数年前に、学会からの要請で福島第一原発の凍土遮水壁で有名となった「人工地盤凍結工法」について執筆することになりました。マスコミには「氷の壁」と揶揄されていたころです。この工事方法は本学工学部に勤務されていた京都大学名誉教授の村山朔郎先生が我が国の草分けで、1950年代に国際会議で知り、今でいうところの大阪のベンチャー企業創設者の高志勤氏と協力して、温暖な気候の我が国でも利用できるように工夫されたと聞いていました。現在、我が国の高速道路、地下鉄、地下河川のような大深度地下工事でなくてはならない技術にまで発展し、台湾やシンガポールの鉄道工事でも活用されています。

それでは、その起源はどこにあるのか、文献を辿り1800年代のJournalを取り寄せて調べると、その始まりは日本の幕末1852年頃のフランス人の地面を凍らせて炭鉱の立坑を造ろうというとんでもない考えが起源であることを知りました。その直後、1859年に同じくフランス人により冷凍機が発明され、1862年にイギリス・ウェールズの炭鉱立坑工事において、世界初の人工地盤凍結工法が用いられました。

その後、1880年代に今の技術の原型を当時の新興国であったドイツ人が扎扎实り特許申請（すでに特許権は切れています）、北ヨーロッパ、ロシアやアメリカの寒冷地に紹介されました。ロシアでは地下鉄のエスカレータートンネルの工事で広まり、アメリカでは様々な挑戦が行われましたが、鉱山の立坑工事で失敗した後は、1950年代まで暫くは放置されていました。

また、1930年代のJournalではベルギーのアントワープのエルデ川下のシールドトンネル工事において、シールドユニットの保護のために人工地盤凍結工法を用いられたとの報告を見つけました。我が国の土木業界では、1990年代に東京湾アクアラインの海底トンネルシールド工事に用いられた人工地盤凍結工法が世界初の海底地盤の凍結工事とされています。しかし、実は遡ること半世紀以上前に、ヨーロッパの小国で実施されていたのです。

なお、戦時下の1940年代に当時国鉄の技師であった村山朔郎先生は我が国初のシールドマシンを設計して関門海底トンネル工事を成功させています。この時、人工地盤凍結工法の存在を知らなかったのか、知っても温暖な我が国での実施をためらったのか、戦時下で検討する余裕がなかったのかを知る由もありません。

いずれにせよ、現代の都市土木工事における最先端技術に成長した人工地盤凍結工法を調べると、技術書では知ることのできない、とんでもない発想、ひとのめぐりあわせ、その時代の要請などが絡んで、運命のようなものを感じます。

図書館 (library) と聞いてまず思い出すのは、私が 1993 年から留学した英国・ロンドン大学のロンドン熱帯・公衆衛生大学院 (London School of Hygiene and Tropical Medicine : LSHTM) の図書館です。LSHTM の図書館は、こぢんまりしていましたが英国らしい歴史を感じさせる素敵な雰囲気、専門書の蔵書が大変素晴らしい図書館でした。図書館中央のホールには比較的大きな一人用の机がいくつも用意され、学生が勉強する環境が整っていました。私は大学院の授業について行くのがやっとで、いつも課題に追まわられていたため、この図書館にしばしば籠り、密かに愛用していた窓際の机に資料を積み上げて勉強していました。冬のロンドンは夕方 4 時過ぎには真っ暗になり、窓から入ってくる街の灯りを時折見ながら、連日遅くまで図書館で過ごしました。勉強はすごく大変でしたが、今となってはとても良い思い出です。



LSHTM図書館

(LSHTMウェブサイト <https://www.lshtm.ac.uk/research/library-archives-service> より)

もう一つの忘れ難い図書館は、同じ英国・ロンドンの大英図書館 (British Library) です。大英図書館は、現在は少し離れた場所に移転しましたが、私の留学当時は有名な大英博物館 (British Museum) に併設されており、LSHTM の目の前にあったため時々立ち寄っていました。当時の大英図書館には、The Round Reading Room と呼ばれる円型の大きな吹き抜けのホールがあり、ロンドン大学の大学院生は入室が許可されていました。このホールの壁一面には古書がぎっしりと並べられ、さらにホール

中央から放射状に本棚が設置されてその間に多くの机が用意されており、今風に言うとハリーポッターの世界観そのもので実に素敵な雰囲気でした。しかし、素敵すぎて本を広げるも勉強できず、周りを見て雰囲気だけを堪能していたのを覚えています。また、大英図書館にはベートーベン直筆の楽譜がさりげなく展示してあるなど、観光客としてワクワクできる図書館でした。なお、The Round Reading Room は、現在は大英博物館の中央の巨大な吹き抜けのアトリウムとして利用されています。

図書館は、時としてイベントにも利用されます。図書館でのイベントで印象深かったのが、オーストラリアのシドニー大学で開催された国際会議の懇親会 (レセプション) に、学内の図書館が利用されたことです。レセプション当日は夕方から図書館全館が貸し切りになり、シャンパンやワイン、軽食が次々と運び込まれて図書館のカウンターや机の上に並べられ、レセプション参加者はグラスやお皿を持って館内の好きな場所に移動しつつ自由に飲食しました。この図書館はたしか考古学博物館も兼ねており、同じ会議に参加した知人たちと談笑しつつ、貴重な展示品や蔵書をゆっくり見学するという贅沢な経験をしました。

インターネットの普及とともに、図書館の役割は大きく変貌しています。かつては、研究のためにまず図書館に行って文献を探し、文献を見つけるとノートにメモし、時にはコピー機でコピーして大切に持ち帰っていたのですが、いまや自宅でも電車の中でも思い立ったらインターネットで文献検索してダウンロードまででき、図書館に行かなくても研究ができてしまう世の中になりました。昨今の新型コロナウイルスのパンデミック下でも、場所を選ばず密を避けて研究を続けられることは大変有難いのですが、図書館を利用する機会が大幅に減ってしまったのは大変残念です。

とはいえ、学生や研究者にとって、図書館はこれからも必要不可欠です。文献を図書館で実際にみて本当に必要なものを選別し、書籍を実際に手に取ってみることで Google や PubMed ではヒットしない情報に巡り会うこともあります。また、勉強する場としての図書館は学生や若手

研究者には貴重ですし、さらに知を集積し発信する場所・空間としての図書館には、引き続き大切な役割があると思います。

図書館と同様に、書店のあり方も変化しています。私は子供の頃から東京都内・新宿のカレーの匂いのする大型書店が大好きで足繁く通い、いまでも近くに行った時は立ち寄るようにしています。また、海外に行くたびに専門書を探しに現地の書店に立ち寄っていましたが、いまや和書も洋書もamazonなどオンライン書店で検索して購入することがほとんどで、日本でも海外でも書店に行く機会があまりなくなってしまいました。

いま、書店も大きく変貌しています。蔦屋書店のように書籍売り場にカフェや雑貨売り場が併設され、ライフスタイルを提案する魅力的な空間となった書店がある一方で、以前は街中に多く見られた小さな書店が次々と姿を消しており、また個性的な書店が少なくなっているように感じます。例えば、英国・ロンドンのFoylesという書店は、「世界最大の書店」としてギネスブックに登録されたことがあり、書籍が床から天井までぎっしりとまさに山積みで、ない本はないとまで言われていました。留学時には、この書店の地下の医学書のコーナーで埃だらけの本の山からお目当ての本を探したものでしたが、数年前に立ち寄ったら普通の大型書店になっており、蔵書も普通でがっかりしました。また、1990年代後半にベトナム・ハノイに開発援助の仕事で長期滞在した際に、ハノイのオペラ座近くの路地裏の本の屋台を愛用していました。この屋台には、当時

は入手が難しかったベトナム政府刊行物の英越対訳版が豊富に揃っていたほか、なぜか国際機関の報告書や議事録などまで販売しており、当時の貴重な情報源の一つでしたが、この屋台も今はなくなってしまったと聞きます。どちらの書店も、その少々怪しげな雰囲気が好きだったので、とても残念です。

とはいえ、いまでも機会があれば通いたい書店があります。それは、国際学会や会議などで海外の大学や研究機関を訪問した際の、施設内の書店 (bookstore) です。その目的は専門書を探すためではなく、大学や研究機関ロゴの入ったマグカップをお土産として買うためです。海外の大学や研究機関の書店には、ロゴ入りグッズが目移りするくらい豊富にあるお店もあって楽しく、手軽にお土産を買うこともでき、また自分にも記念になるので調子に乗って訪問した先々でマグカップを買い続けていたら、私のマグカップコレクションはかなりの数になってしまいました。いまは新型コロナの影響で、学会も会議もオンライン開催でどこにも行けませんが、早く以前のように自由に国内外を飛び回って、いろんな図書館や書店を訪問し、新たな知見に触れるとともに、マグカップコレクションのさらなる拡充もしたいと思っています。しばらくは大変な状況が続くことが予想されますが、図書館や書店にはなんとか存続して欲しいと思いますし、利用者にも魅力的な空間やサービスを提供する場として、これまで以上に発展して欲しいと心から願っています。皆さんも、図書館や書店を積極的に活用し、心に残る図書館や書店を見つけてください。



大英図書館 The Round Reading Room

(大英博物館ブログ <https://blog.britishmuseum.org/the-round-reading-room-at-the-british-museum/> より)

## 図書館学生サポーター活動

図書館では、本や読書が好きな学生たちが「図書館学生サポーター」として活動して

います。主な内容は、知的書評合戦「ビブリオバトル」の開催と参加、図書館企画や選書の協力、そして本誌「学而（図書館報）」への寄稿などです。昨年は新型コロナウイルス感染症の予防対応として、オンラインでのミーティングも開始しました。また活動以外にも、「摂大文化大賞」にサポーター数名が応募出品し、全員入賞するという快挙もありました！

このページはそんな“本好きで感性豊か”なサポーターからの情報をお届けします。



## ビブリオバトル 2020

### ビブリオバトル・オンライン大会に出場して

法学部 3年次 小原 悠暉

2020年の全国大学ビブリオバトルは、新型コロナウイルスの流行により、一時期は中止という状況だった。

私は今年度から大学3年次になり、もしかすると来年は就職活動により参加ができなくなるかもしれないと思い、今年が最後になるという気構えでいた。中止になると聞いた時は、私もそうなるだろうと予想はしていたが、やはり残念な気持ちを持ち、全国大学ビブリオバトルに心残りがあつた。

暫くたち、ビブリオバトルがオンライン大会を開催すると聞いた私はその朗報に心が舞い上がったが、一抹の不安を感じた。大学の講義でオンライン授業は体験しているが、ビブリオバトルのような外部での活動を何も不安なく行えるほど、リモートに私は慣れていなかった。それでも参加できるだけでもと思い、ビブリオバトルに向けて準備を開始した。

今回のビブリオバトルで私は吉田修一の「横道世之介」(文春文庫)を紹介した。今回、私は本の選考に関し、ある条件をつけた。それは、大学が舞台の作品もしくは主人公が大学生であることである。その理由は、やはりコロナウイルス流行の影響によりリモート授業が増え、今年大学に入学した学生などに大学というものを感じて欲しいと思い、この選考条件をつけた。

ビブリオバトルまで時間がなく、大学の課題やアルバイト、就職活動を行いながらの準備をし、リモートでスピーチを行うことを考えリハーサルを行ったので、今までのビブリオバトルと比べ、一番準備が大変であった。

ビブリオバトルの結果は、残念ながら予選を突破することは叶わなかった。同率一位となることができたが、全国大学ビブリオバトルのルールで、決選投票となり数票の差で敗退となったのだ。

予選敗退と不甲斐ない結果で終わってしまったが、この大会で私は本戦出場をより強く望む様になった。是非、来年の大会に出場し、本戦に出場し全国大学ビブリオバトルを盛り上げたいと感じた。



※紹介した本「横道世之介」吉田修一(著)文藝春秋(文春文庫)2012



## 図書館学生サポーターが薦めるこの1冊

### 「パンク侍、斬られて候」

町田 康(著)  
角川書店(角川文庫) 2006



浪人の掛十之進が黒田藩に流れ着き、そこで事件を起こしてしまう。その事件により黒田藩に阿鼻叫喚の大惨事が…。

この本は一度読んでも理解できる人はいないと思います。私も数回は読み直しています。では、何でそんな本を私が紹介するのか。それは、この本が何度も読み直すほど面白い本だからです。序盤中盤は皆さんついて来れると思いますが、クライマックスは怒涛の展開がくり広げられ、ラストは驚きの終わり方。この本は兎に角、勢いが凄いです。自粛期間で刺激が欲しい方は、是非読んでみて下さい。

法学部3年次 小原 悠暉

### 「東京すみっこごはん」

成田 名璃子(著)  
光文社(光文社文庫) 2015年



去年から、新型コロナウイルスの影響で人と直接会うことが難しくなっています。この本は「すみっこごはん」という場所と料理を通じて、人とのあたたかいつながりを確認できます。ある人の想いのつまったレシピ帳に載った料理をそこに集まった人々が交代で作っていく。年齢も性別も職業も異なる人々が集まる「すみっこごはん」を舞台にした心あたたまる物語です。本を読めば、家庭料理が食べたくなる、そんな物語です。

理工学部2年次 森藤 優

### 「クルマ運転術 おさらいマニュアル」

ペーパードライバースクール(監修)  
大泉書店 2014



運転免許を取得した方から、今教習所に通っている・免許を取る予定の人にはぜひ読んでほしい一冊です！基本的な運転テクニックから車庫入れまでカラーイラスト付きで分かりやすく解説されています。例えば高速道路への合流や車線変更など、多くの実用的な場面を“教習所の教官のように”わかりやすく解説しています。またよくある事故の事例も紹介されています。現在運転している人も“慣れてきた時こそ事故になりやすく、法的責任”を負うことにも。この本を参考にもう一度自分の運転を確認して欲しいです。

法学部1年次 渡辺 修司



## 教員が選ぶ 推薦図書

先生方に「学生に薦めたい本」を  
テーマに推薦図書を紹介して  
いただきました。

### 『風味は不思議:多感覚と「おいしい」の科学』

ボブ・ホルムズ[著] 堤理華[訳]  
原書房 2018年

理工学部 教授 西矢 芳昭



風味は味覚や嗅覚だけでなく視覚や聴覚、触覚、知識、経験、先入観など様々な情報に影響される複雑怪奇な感覚で、よく分からないことだらけです。例えば知ってのとおり、ほんのちょっとした不愉快な味は食べ物の風味を引き立てる場合があります。元々苦味を知覚することは危険感知でしたが、経験によりビールやコーヒーの苦味をおいしいと感じるようになります。しかも苦さに好き嫌いができます。一体何が原因でしょうか?この本を読めば、日々の食事に関する身近な不思議を当たり前のことに過ぎていると気付かされます。小説ではないので、興味のある部分だけ読むこともできます。読後は、毎日の食卓に新しい刺激が加わるといえますよ。

### 『それでもそれでもそれでも』

齋藤陽道[著]  
ナナログ社 2017年

外国語学部 講師 古矢 篤史



齋藤陽道は「感音性難聴」という障がいを持って生まれた「ろう」の写真家です。本書には、彼が音のない世界でこそ「見る」ことのできる神秘的な風景と、そこから浮かびあがってきた詩のような言葉が溢れています。彼は、「心と心が交わる時にしか、見ることの意味は深まらない」と言っています。彼は音が聞こえなくても、聞こえないからこそ、眼前のかけがえのない人や景色を慈しむように撮影します。私たちはいま人との交流を制限されていますが、そのような障がいを乗り越えて心をかよわすことは、それほど難しいことではないのではないのでしょうか。

### 『そうだ、葉っぱを売ろう!:過疎の町、どん底からの再生』

横石知二[著]  
ソフトバンククリエイティブ 2007年

経営学部 教授 佐藤 正志



この本は徳島県の間山村にある上勝町で、お年寄りを元気にし、「主役」にするために始められた「葉っぱビジネス」を紹介しています。リーダーである横石知二さんの苦闘の道のり、おばあちゃんたちを競争させ、葉っぱを料理の「つまもの」として商品化するための工夫の数々。横石さんの独創的な経営力に圧倒されます。「経営」が「金儲け」ではなく、地域の人々や地域そのものを元気にするためにあることを教えてください。元気の出る本です。

### 『ライオンのおやつ』

小川糸[著]  
ポプラ社 2019年

薬学部 教授 大塚 正人



2020年4月第17回本屋大賞第2位の小川糸さんの『ライオンのおやつ』をお薦めします。私が今年読んだ本の中ではダントツ1位の感動作品です。がんで余命宣告された三十三歳の女性が、瀬戸内に浮かぶ島のホスピスで過ごす人生最後の日々が描かれています。ホスピスでは日常的に誰かが亡くなります。あなたがそこで働いているとしたら、患者さんにどう接しますか?タイトルの意味は読んでからの楽しみ。薬学部・看護学部の学生にはもちろん読んで頂きたいですが、その他の学部の学生にも絶対お薦めです!号泣必至!

### 『ペスト』

カミュ[著] 宮崎嶺雄[訳]  
新潮文庫(新潮社) 2004年

法学部 教授 田中 敦



ペストが蔓延して閉鎖・隔離された都市という、不条理な社会の中で生活する人々が、微力感、無力感を抱きつつも、ペストに立ち向かう。コロナ禍の閉塞下にある現在の社会と余りにも符合していることに驚かされる。これから就活、卒業、就職などの人生の節目を迎え、種々の決断を求められる学生諸君は、主人公をはじめとする多くの登場人物の行動、生き様から様々な感銘・示唆を受けることであろう。この機会に本書に接し、「今を生きていること」について自ら考えていただきたい。「Yahoo!検索大賞2020」の小説部門賞を受賞した作品。

### 『わいたこら.:人生を超ポジティブに生きる僕の方法』

新庄剛志[著]  
学研プラス 2018年

経済学部 准教授 名方 佳寿子



昨年のトライアウトに48歳で挑戦した新庄選手。子供の頃は運動靴も買えない貧しい家庭に育ち、スポーツの中でも野球が一番下手でドラフトも5位指名。辛い環境の中人一倍考えて努力し、食欲に成功を追求した結果、阪神タイガースで活躍後、メジャーリーグにわたり、帰国後日本ハムの日本一に貢献してスターとなる。引退後、資産管理者の詐欺にあい20億円失い絶望する。そこからまた這い上がってポジティブに生きていこうとする新庄選手の生き方・考えが描かれており、いくつになっても自分の可能性を信じて挑戦していくことの大切さを伝えてくれる一冊である。

### 『万葉秀歌』(上・下)

斎藤茂吉[著]  
岩波新書(岩波書店) 1968年

看護学部 准教授 佐久間 夕美子



大正から昭和を代表する歌人である斎藤茂吉が、四千五百有余の歌から約四百の秀歌を選び、解説を加えたのが本書です。

1938年に初版が発行され、以降数十年以上にわたって版を重ね続けています。万葉集をほとんど知らなくても問題ありません。本書は一首ごとに現代語訳、歴史的な背景と歌人の来歴等が簡潔に述べられており、最初からでも途中からでも、好きな一首を選んで繰り返し読むことも自由にできます。閉塞感の漂う今だからこそ、万葉集のもつ力強さ、言葉のなめらかさと美しさに触れてみるのはいかががでしょうか。

### 『世界は分けてもわからない』

福岡伸一[著]  
講談社現代新書(講談社) 2009年

農学部 教授 小川 俊夫



研究とは、社会の真理を探求することであり、そのため社会との繋がりを意識しつつ研究を行うことが重要である。この本は、テレビなどで活躍する筆者が、日常生活や名画などと研究への繋がりについて研究者目線で記述したエッセイ集で、研究への情熱とプレッシャーが引き起こした有名な研究不正の事例などについても、明快かつ魅力的な文章で紹介した名著である。

これから理系研究者を目指す人はもちろんのこと、研究に取り組む全ての大学生に、研究の楽しさと難しさを理解するためにも、一読をお勧めする。

### 『プレイフル・シンキング:働く人と場を楽しくする思考法:決定版』

上田信行[著]  
宣伝会議 2020年

教職支援センター 講師 谷口 雄一



あなたが本学を卒業した後の自分の姿を想像してください。社会への扉を開けたあなたは、1年経ち、どこで何をしているでしょうか?5年後はどうでしょう?あなたは仕事を楽しむことができているでしょうか?

本書には、「仕事に真剣に取り組むときにわき起こるドキドキワクワク感」をプレイフル・シンキングと定義する著者上田氏の示唆に富んだアドバイスの数々が記されています。え?何だか難しそうですって。大丈夫です。遊び心に溢れる著者の考えを読み進めるにしたがって、あなたの考え方もきっとプレイフルなものになっていくでしょう。

# 枚方分館 ニュース

枚方分館は、薬学・看護学・農学に関する専門図書を主に揃え、教育・研究を支援する体制を整えています。また、学生の読書習慣を養うため『テーマ別特集展示』、『YOMOCA』等を企画・実施しています。

## テーマ別 特集展示

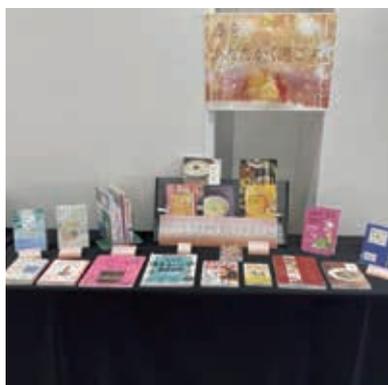
学生が興味を示しそうな話題や定番のテーマについて特集展示を実施しています。

「医療小説」、「闘病記」(写真①)などの専門分野に関連するものから、全国書店員が選んだ一番売りたい本の大賞である「本屋大賞」、大学の建っている枚方、大阪の地域を知る「大阪と枚方」、厳しい寒さの中どのように暖かく過ごせるかといった身近なテーマである「冬をあたたかく過ごす」(写真②)等を企画しました。

定番のテーマとしては「摂大文化大賞」、「選書フェア」、「ノーベル賞」、「環境問題」等があります。



写真①



写真②

6月	本屋大賞
6月	医療小説 2020
7月	闘病記
9月	選書フェア 2020
9月	摂大文化大賞に向けて 2020
10月	闘病記
10月	大阪と枚方
10月	貸出0ゼロの本
11月	冬をあたたかく過ごす
1月	ノーベル賞
1月	環境問題 2020
2月	シリーズ ケアをひらく

## 読書ラリー YOMOCA(ヨモカ)

### 今年で8年目! (2014年度スタート)

参加者にはポイントカードを配付します。本を期限内に返却、本のブックレビュー(書評)作成、希望図書申請、アンケート提出によりポイントが付き、ポイントカードにスタンプを押してもらえます。30個のスタンプが貯まるとYOMOCAオリジナルグッズ(写真)と引き換えます。

学生に少しでも本を読むきっかけになれば図書館としてもうれしいことです。



#### 目的

- ★学生の読書習慣を養う!
- ★ブックレビュー作成により、理解力・思考力・表現力を養う!

## 選書フェア

2020年7月に、薬学、看護学、医学、生命科学、農学を中心に学術書を図書館分館内に展示して選書フェアを開催しました。学生や教員に実際にご来館いただき、手に取って選んでいただきました。

なお、選書された図書は、協力いただいた学生と教員への報告を兼ねて特集展示を実施しました。



# 図書館利用統計

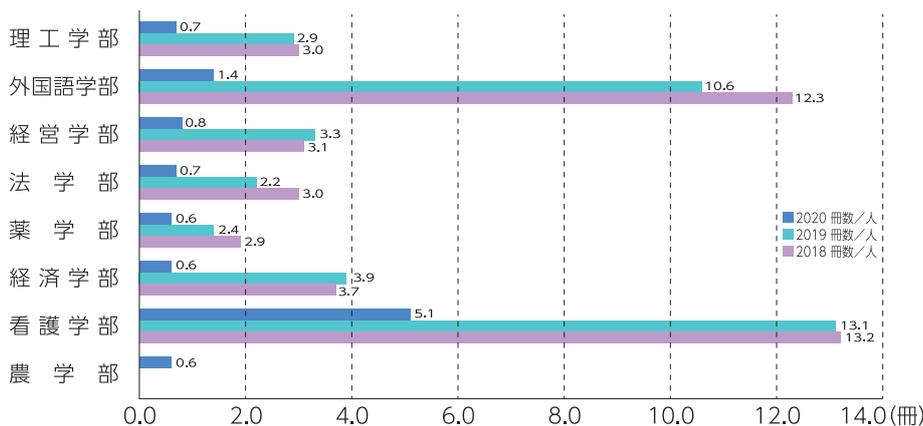
図書館ではより良い図書館運営のために利用状況の調査、アンケートの実施などを行っています。ここでは、2020年度(12月末まで)の利用状況と、学部別貸出冊数等について報告します。

## 図書館利用状況 (2020年度[12月末まで] ※2018・2019年度は年間参考)

区 分		本 館	分 館	計
開館日数	2020年度	185日	196日	—
	2019年度	280日	287日	—
	2018年度	280日	286日	—
入館者数	2020年度	15,611人	5,475人	21,086人
	2019年度	221,345人	56,450人	277,795人
	2018年度	230,052人	69,686人	299,738人
貸出者数	2020年度	3,807人	1,886人	5,693人
	2019年度	18,245人	4,790人	23,035人
	2018年度	19,170人	5,743人	24,913人
貸出冊数	2020年度	8,314冊	4,672冊	12,986冊
	2019年度	35,504冊	10,798冊	46,302冊
	2018年度	37,838冊	11,442冊	49,280冊

◎新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2020年2月末より学外者の入館停止、開館日数や開館時間の制限などを行ってきました。そのため、特に4~7月は入館者数が前年度比の0.4~4.2%、貸出者数も20%までに留まる状況でした。12月現在も入館者数は前年度比の20%未満、貸出者数は30~40%台という状況ですが、新型コロナウイルス感染症拡大防止措置を徹底しつつ、利用者のニーズに応じていけるよう図書館サービスを工夫してまいります。

## 学部別1人当たり貸出冊数 (2020年度[12月末まで] ※2018・2019年度は年間参考)



◎新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に伴う図書館の利用制限を行ったことにより、2020年度は貸出冊数が大きく落ち込みました。例年多くの貸出のある外国語学部も1人当たり1.4冊程度に留まっています。1人当たりの貸出冊数がほとんどの学部で1冊を割る中、看護学部は実習用の図書の貸出などで貸出数が伸びています。また、図書館では電子ブックの利用も促進しています。SSL-VPNサービスを利用して学外からでも利用可能な図書がありますので、ぜひアクセスしてみてください。

\*対象:学部生・卒研生

## 貸出トップ10 (2020年度[12月末まで]) [本館]

タイトル【著者/出版社】	貸出回数
ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー : the real British secondary school days 【プレイディみかこ/新潮社】	10
流浪の月 【凧良ゆう/東京創元社】	10
むかしむかしあるところに、死体がありました。 【青柳碧人/双葉社】	8
ケーキの切れない非行少年たち 【宮口幸治/新潮社】	8
店長がバカすぎて 【早見和真/角川春樹事務所】	8
medium : 霊媒探偵城塚翡翠 【相沢沙呼/講談社】	8
オレたちバブル入行組 【池井戸潤/文藝春秋】	7
落日 【湊かなえ/角川春樹事務所】	7
ストレスゼロの生き方 : 心が軽くなる100の習慣 【Testosterone/きずな出版】	7
Factfulness : 10の思い込みを乗り越え、データを基に世界を正しく見る習慣 【ハンス・ロスリング, オーラ・ロスリング, アンナ・ロスリング・ロンランド著; 上杉周作, 関美和訳/日経BP社】	7
82年生まれ、キム・ジョン 【チョ・ナムジュ著; 斎藤真理子訳/筑摩書房】	7

◎第2回Yahoo!ニュース 本屋大賞 ノンフィクション本大賞受賞作品が1位にランクインしました。メディアでも取り上げられ、多くの貸出回数に結びつきました。同率1位の『流浪の月』は2020年本屋大賞受賞作で、他にも本屋大賞ノミネート作品は例年貸出上位にランクインしています。また、ドラマ「半沢直樹」の原作本『オレたちバブル入行組』、『82年生まれ、キム・ジョン』など、メディアで話題になった本が多く借りられました。



\*資格・就職・TOEIC関連本、参考書、リーディングラウンジの本は除く

# 2020年度 図書館利用者アンケート結果

図書館では、皆様の利用状況やご意見・ご要望などを調べ、図書館サービス向上および図書館の利用環境改善の参考資料とするため、毎年同じ時期に利用者アンケートを実施しています。

2020年度は、11月2日(月)から21日(土)までの間、図書館内でのアンケート用紙配付と図書館ポータルサイトでのWeb回答の2つの方法で実施しました。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため図書館でも利用制限がある中、ご来館または図書館ポータルサイトで利用者アンケートにご協力いただき、皆様には御礼申し上げます。

この度、アンケートの集計結果がまとまりましたので、前年度との比較なども交え、主な項目について結果をお知らせします。



## 1. 回答者数

142人(前年度:454人)、この内web回答:89人(前年度:87人)

**【本館】** 8人(前年度:288人) **【本館：web】** 67人(前年度:68人)

**【分館】** 45人(前年度:79人) **【分館：web】** 22人(前年度:19人)

## 2. アンケート集計

### (1) 図書館をどの程度利用していますか。

#### 【本館】

選 択 肢	教職員	院・学部生	その他	計(人)	比率(%)	前年度(%)
ほぼ毎日	3	1	0	4	5.3	19.4
週に2~3日程度	3	6	0	9	12.0	36.5
週に1日程度	3	13	0	16	21.3	25.6
月に2~3日程度	4	16	0	20	26.7	7.3
月に1日程度	1	5	0	6	8.0	4.8
試験期間のみ	0	0	0	0	0.0	2.5
ほとんど利用しない	1	17	0	18	24.0	2.5
その他(記入なし)	0	2	0	2	2.7	1.4

#### 【分館】

選 択 肢	教職員	院・学部生	その他	計(人)	比率(%)	前年度(%)
ほぼ毎日	0	0	0	0	0.0	4.1
週に2~3日程度	0	5	0	5	7.5	13.3
週に1日程度	0	7	0	7	10.4	12.2
月に2~3日程度	3	15	0	18	26.9	10.2
月に1日程度	4	10	0	14	20.9	12.2
試験期間のみ	0	2	0	2	3.0	19.4
ほとんど利用しない	0	15	0	15	22.4	25.5
その他(記入なし)	1	4	1	6	9.0	3.1

▶本館では、前年度に比べると比較的に利用の度合いが高い「ほぼ毎日」と「週に2~3日程度」の回答が大きく減少し、「週に1日程度」の回答もやや減少していますが、「月に2~3日程度」の回答が前年度より増加しており、回答の65.3%が月に数回以上は図書館を利用していることが分かります。

また、利用の度合いが低い「ほとんど利用しない」の回答が大幅に増加し、「月に1日程度」の回答もやや増加しています。「試験期間のみ」の回答はありませんでした。

▶分館では、前年度に比べ「ほぼ毎日」の回答が無くなり、「週に2~3日程度」と「週に1日程度」、及び「試験期間のみ」の回答が減少しています。

▶一方、「月に2~3日程度」と「月に1日程度」の回答が増加しており、「ほとんど利用しない」は前年度と同程度の割合となっています。

▶本館も分館も例年とは異なった回答分布の状況になっていることが分かりました。本年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、図書館も利用制限を行ったことで生じたものと推測されます。このような状況がしばらく続く心配はありますが、図書館では利用者サービスを工夫し、より使い易い図書館を目指したいと考えています。

### (2) 図書館資料のうち、次のどれを充実すべきだと思われませんか。(複数回答)

**【本館】** 回答者数：69人

項 目	回答者数	比率(%)	前年度(%)
専門図書	33	47.8	42.7
教養図書	33	47.8	34.6
文庫本・新書本	18	26.1	34.8
資格取得関連図書	17	24.6	12.1
データベース	11	15.9	8.4
一般雑誌	8	11.6	13.8
電子ブック	7	10.1	11.5
電子ジャーナル	7	10.1	5.1
外国学術雑誌	5	7.2	6.5
シラバス掲載図書	5	7.2	5.1
国内学術雑誌	5	7.2	4.5
参考図書	2	2.9	18.0
視聴覚資料	2	2.9	11.8
新聞	2	2.9	5.9
その他	2	2.9	3.1

**【分館】** 回答者数：63人

項 目	回答者数	比率(%)	前年度(%)
専門図書	30	43.5	62.8
教養図書	26	37.7	42.6
文庫本・新書本	20	29.0	25.5
参考図書	10	14.5	21.3
電子ブック	8	11.6	9.6
電子ジャーナル	7	10.1	18.1
一般雑誌	6	8.7	16.0
シラバス掲載図書	6	8.7	7.4
資格取得関連図書	5	7.2	5.3
国内学術雑誌	4	5.8	12.8
データベース	4	5.8	4.3
外国学術雑誌	2	2.9	10.6
視聴覚資料	2	2.9	5.3
新聞	1	1.4	2.1
その他	0	0.0	1.1

▶本館と分館に共通して、上位3項目まで「専門図書」、「教養図書」、「文庫本・新書本」の資料充実を望む割合が比較的多くなっています。

▶前年度に比べ、本館では「参考図書」や「視聴覚資料」の回答が減少し、分館では「国内・外国学術雑誌」や「一般雑誌」の回答が減少しました。これとは逆に、本館では「データベース」と「電子ジャーナル」、分館では「電子ブック」など電子資料への回答が増加しているのが特徴的です。

▶図書館の利用制限が続く状況で、学外からの利用が可能になった電子資料が増えたことが関係していると思われる。

(3) 図書館の環境についてどう思われますか。  
 良い:3点、普通:2点、悪い:1点として平均点を算出しました。

項 目	本館	前年度	分館	前年度
資料の配置	2.4	2.6	2.5	2.3
閲覧席	2.4	2.5	2.6	2.3
案内表示	2.4	2.5	2.6	2.3
静寂性	2.6	2.4	2.7	2.3
視聴覚設備	2.3	2.5	2.4	2.1
パソコン設備	2.2	2.4	2.5	2.1
ラーニング・コモンズ(本館のみ)	2.4	2.5	2.4	2.2
環境全般	2.5	2.5	2.7	2.3

▶本館の「静寂性」は評価を上げ、「環境全般」は前年度と同じ評価となり、その他の項目は少し評価を下げました。また、利用制限が長く続いたことから「パソコン設備」と「視聴覚設備」は、良好な評価を得られていません。分館では、前年度に比べると全般的に評価を上げており、特に「静寂性」については良い評価を得ています。  
 ▶ここでも図書館の利用制限が影響したと思われる結果が出ています。利用者が少ないことから「静寂性」は高評価を得られています。  
 ▶今後も学習の場と資料や情報を提供する図書館として、より良い環境に整えられるよう努力を続けます。

(4) 図書館の企画展示(特定のテーマの図書の展示)についてどう思いますか。

項 目	本館 比率(%)	分館 比率(%)
関心(興味)がある	50.0	40.0
あまり関心(興味)はない	27.8	30.8
企画展示は見たことがない	22.2	29.2

▶本館では、「関心(興味)がある」が前年度41.7%が50%に増加し、「あまり関心(興味)がない」は46.3%から27.8%に減少しており、分館でも「関心(興味)がある」が前年度35.4%が40%に増加し、「あまり関心(興味)がない」は61.5%から30.8%に減少しています。全体では企画展示に関心がやや集まりつつあるようです。企画展示では、社会の話題や皆様のニーズなどに合うものを選び、さらに工夫したいと考えています。

(5) 図書館イベント活動等についてご記入ください。

a:関心(興味)がある、b:あまり関心(興味)はない、c:知らない

項 目	本館 比率(%)			分館 比率(%)		
	a	b	c	a	b	c
摂大文化大賞	30.1	45.2	24.7	25.8	43.5	30.6
ピブリアバトル	26.4	54.2	19.4	12.9	43.5	43.5
マイ・フェイバリット・ブックス	26.0	39.7	34.2	17.7	33.9	48.4
選書フェア	47.9	26.0	26.0	36.5	31.7	31.7
図書館学生サポーター活動	22.2	47.2	30.6	14.5	48.4	37.1
読書ラリーYOMOCA (枚方分館のみ)	8.6	37.9	53.4	36.5	28.6	34.9

▶図書館イベント活動等では、「あまり関心(興味)はない」と「知らない」という回答が比較的多く、まだまだ図書館イベント活動等のことを知らない方が多いように思われます。今後、各種イベントや関連情報の発信方法などをより一層工夫する必要があると考えています。  
 ▶図書館イベント活動等に参加している学生は、とても生き生きと活動しています。ご自分の想像力や表現力を伸ばし試す場として、図書館イベント活動等に参加するのはいかがでしょうか。

(6) 図書館のお知らせやサービス内容を主に何で知りますか。〈複数回答〉

回答者数 本館:57人、分館:56人

項 目	本館回答者数 比率(%) 前年度(%)			分館回答者数 比率(%) 前年度(%)		
	回答者数	比率(%)	前年度(%)	回答者数	比率(%)	前年度(%)
ホームページ	48	84.2	35.7	40	71.4	26.6
Library Guide[冊子]	1	1.8	2.0	0	0.0	1.1
館内のパンフレット	8	14.0	6.5	3	5.4	7.4
館内の掲示	8	14.0	43.0	10	17.9	41.5
館外の掲示	1	1.8	18.3	2	3.6	19.1
図書館スタッフ	2	3.5	3.1	10	17.9	9.6
友人	4	7.0	6.5	2	3.6	6.4
その他	2	3.5	4.8	1	1.8	13.8

▶図書の案内やサービス情報について、本館・分館とも、多くの人たちが「ホームページ」を情報源にしており、次いで「図書館内の掲示物」から得ていることが分かります。  
 ▶図書館では、摂大ポータルサイトのメッセージ機能を利用して図書館情報や各種の案内を随時発信しています。常にチェックし、興味ある案内や情報がありましたらぜひ図書館へお越しください。  
 ▶Library Guide [冊子]は、2018年度から入学時のオリエンテーションでは配付していません。図書館で実施する利用説明会などで配付するだけですが、摂大図書館ポータルサイトのトップページからいつでもご覧になれます。

(7) 次の目的で図書館を利用する場合、利用環境はどうですか。

良い:3点、普通:2点、悪い:1点として平均点を算出しました。

項 目	本館平均	前年度	分館平均	前年度
レポート作成	2.4	2.4	2.6	2.2
自学、自習	2.5	2.7	2.7	2.5
グループ学習	2.2	2.4	2.2	1.7
図書閲覧	2.3	2.6	2.7	2.4
雑誌・新聞閲覧	2.3	2.5	2.5	2.3
視聴覚資料鑑賞	2.2	2.4	2.4	2.0

▶本館では、「レポート作成」以外の項目では前年度の評価よりやや下げています。前年度は、「自学、自習」を筆頭に「図書閲覧」と続き全般的に各項目とも比較的良好な評価を得ていましたが、今年度は少し残念な結果となっています。  
 ▶分館では、前年度に比べ全般的に評価が上がっています。特に「自学、自習」と「図書閲覧」では2.7ポイントと高い評価になっています。

(8) 図書館スタッフの対応についてどう思われますか。

	良い(%)	普通(%)	悪い(%)
本 館	59.7	40.3	0.0
分 館	78.1	20.3	1.6

▶本館・分館とも、「良い」と「普通」が回答のほとんどを占め、良好な評価を得ました。特に分館では「良い」という評価に78.1%と多くの利用者から高評価をいただきました。今後も引き続き図書館サービスの向上に努めてまいります。

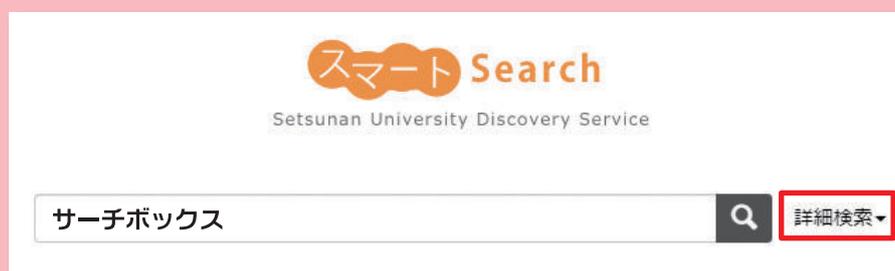
# サービスの紹介

図書館では、オンラインで利用できる多くの電子資料を契約しています。そのなかのひとつである資料検索機能の便利な使い方や、学外からもアクセス可能な電子資料の利用について簡単にご紹介します。

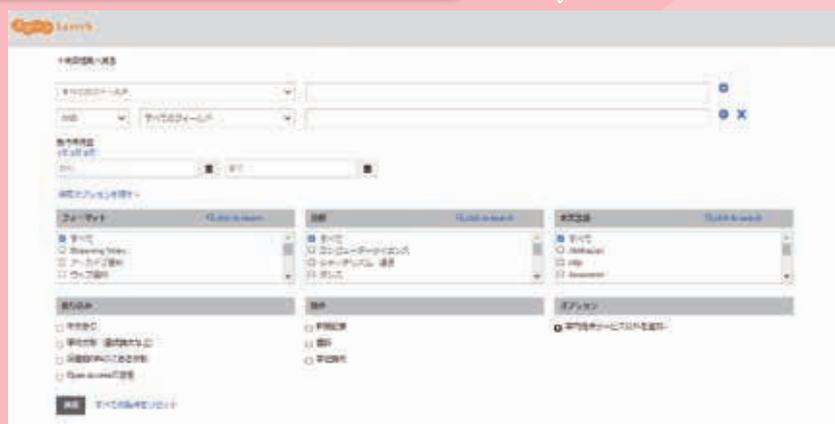
「検索達人」を目指して、より良い学修・研究の成果につなげられるよう、図書館でも応援します。

## Summon「スマート Search」

「スマート Search」は、サーチボックスにキーワードを入力するだけで、図書館の所蔵資料、電子ジャーナル、機関リポジトリ、オープンアクセス誌を簡単に探し出すことを可能にした新しいサービスです。「どのデータベースを使えばいいかわからない」「とりあえず論文を探したい」、こんな時にお薦めです。



詳細検索画面へ



## Maruzen eBook Library

学術情報に特化した電子書籍を提供する、学術・研究機関向け電子書籍配信サービスです。学修・研究でのご利用に便利な検索・閲覧機能が充実しています。

リモートアクセスの利用登録をすると、学内に限らず、自宅や外出先など、いつでもどこからでも自由にアクセスすることが可能になります。



## 日経 BP 記事検索サービス

「日経 BP 記事検索サービス」は、日経 BP 発行の専門誌約 50 誌をデジタルデータ化し、オンラインで検索・閲覧できる雑誌記事のデータベースです。就職活動の情報収集、レポート・論文の参考文献として役立ちます。



## ヨミダス歴史館

「ヨミダス歴史館」は、明治からの読売新聞記事 1,400 万件以上がネットで読めるデータベースです。明治～昭和の新聞を当時のまま読めるほか、昨日までの記事が毎日追加され、年間 30 万件のペースで増えています。



お役立ちファイルへ



# 2020年度「摂大文化大賞」受賞作品発表!

図書館では毎年、学生の文化的創作意欲を奨励するため「摂大文化大賞」を設け作品を募集し、優秀な作品を表彰しています。

今年度は3部門、計17点の作品応募があり、受賞発表および表彰式を12月15日(火)に図書館本館1階ラーニング・コモンズで実施しました。

厳正な審査の結果、大賞には、岩橋正磨さん(外国語学部3年次:作者代表)の文芸作品『本が読みたくなる本』が選ばれ、この他5作品が部門賞などを受賞し、小山図書館長から表彰状と副賞が授与されました。

部門・賞	作品名	作者(所属・年次・氏名)
 <b>大賞</b>	『本が読みたくなる本』	外国語学部 3年次 岩橋 正磨(代表)
美術工芸部門・優秀賞	いつかの旅を夢みて	法学部 1年次 渡辺 修司
美術工芸部門・準優秀賞	大切なもの	理工学部 2年次 満島 ひより
写真部門・優秀賞	泡沫の恋	外国語学部 4年次 瀧田 七海
写真部門・準優秀賞	夏の終わり	外国語学部 3年次 斉藤 ゆりか
審査員特別賞	切り絵「サモトラケのニケ」	農学部 1年次 小島 裕也



**大賞**  
『本が読みたくなる本』



美術工芸部門・優秀賞  
いつかの旅を夢みて



美術工芸部門・準優秀賞  
大切なもの



写真部門・優秀賞  
泡沫の恋



写真部門・準優秀賞  
夏の終わり



審査員特別賞  
切り絵  
「サモトラケのニケ」



大賞受賞の岩橋さん



表彰式後の記念撮影

<編集後記> 新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するため、休館や利用制限の実施など、利用者の方々にご不便をおかけする図書館運営を余儀なくされました。With/Afterコロナ時代における非来館型・非対面型の図書館サービスも検討することは喫緊の課題であり大切なことであると考えています。図書館という「場」に来館し、図書館を「体感」し、図書館資料に「触れる」ことの意義についてもあらためて考えながら、これからの図書館のあり方、これからの図書館サービスについて探究してまいります。

Smart and Human  
摂南大学



「学而」摂南大学図書館報 No.102 2021.3 編集・発行 常翔学園 摂南大学 図書館

本館 〒572-8508 大阪府寝屋川市池田中町 17-8 TEL.(072)839-9111

分館 〒573-0101 大阪府枚方市長尾峠町 45-1 TEL.(072)866-3102

URL : <https://www.setsunan.ac.jp>